

講義名	教養特講 (物流)			授業形態	
担当教員	田中 康仁	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
主題と概要					
<p>本学には、物流あるいはロジスティクスに関連する科目が複数存在する。また、卒業後、物流関連会社・運輸会社、あるいは企業の物流部門に就職する学生も少なくない。本講義は、今後、本学において物流を学んでいく上での導入科目の位置付けである。現実社会における物流の重要性を述べるとともに、実際の物流の取り組みをケースとして紹介する。また、今後の物流が直面する課題についても述べる。</p>					
到達目標					
<p>(1)物流の役割、重要性を理解できるようになる。 (2)小売・流通業における物流の知識を習得できるようになる。</p>					
提出課題					
講義内容の理解度を確かめるレポートを課す。					
課題 (レポートや小テスト等) に対するフィードバックの方法					
提出の次の講義内において、解説を行う。					
評価の基準					
授業中の小レポート、期末レポートによって総合的に評価する。 小レポート：50%、期末レポート：50%					
履修にあたっての注意・助言他					
授業中の私語は厳禁。 産席指定。					
教科書					
.物流のしくみ。	田中康仁	同文館出版	1980	9784495541088	
参考文献					

その他								
毎回、プリントを配布する。								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクッション 2 物流とロジスティクス 3 物流の起源 4 物流の歴史 5 小売業における物流の必要性 6 企業の取り組み1 (カクヤス、スシロー、青山商事) 7 企業の取り組み2 (アイリスオーヤマ、しまむら) 8 企業の取り組み3 (ドン・キホーテ、ヒマラヤ) 9 ネット通販の成長と宅配輸送 10 Amazonとヤマト運輸 11 物流で働く1 - ドライバー業務 12 物流で働く2 - 輸出入業務・倉庫業 13 物流センターの役割 14 物流料金と物流コスト 15 物流が抱える問題 - 人材不足、再配達問題 								
授業形態 (アクティブ・ラーニング)								
<table border="1"> <tr> <td>ア：PBL (課題解決型学習)</td> <td>イ：反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</td> </tr> <tr> <td>ウ：ディスカッション、ディベート</td> <td>エ：グループワーク</td> </tr> <tr> <td>オ：プレゼンテーション</td> <td>カ：実習、フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td colspan="2">キ：その他 (A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)</td> </tr> </table>	ア：PBL (課題解決型学習)	イ：反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク	キ：その他 (A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	
ア：PBL (課題解決型学習)	イ：反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク							
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク							
キ：その他 (A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)								
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<ul style="list-style-type: none"> * 各回に指定するテキストの範囲を熟読し、要点をまとめておくこと：各2時間×15回=30時間 * 各回の講義内容の復習：各1時間×15回=15時間 * 期末レポートの作成：15時間 合計 60時間								
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連								
<p>本学のDP (2) 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材にある「収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる (情報分析力)」に対しては、現実社会における物流の複雑性と実際の物流の取り組みを理解してもらう。また、「現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる (課題発見力)」に対しては、今後の物流が直面する課題を解決するための確を築いてもらう。</p>								
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述								
実務経験の有無及び活用								
備考								